

【続報8】世界的な港湾混雑による物流への影響 (中国)

オミクロン株などの亜種により断続的に新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、世界各地の主要港では港湾の混雑解消に向けて引続き課題が山積しております。本号では、中国の港湾における物流への影響をお伝えします。

1. 寧波港、天津港、大連港の状況

- 昨年末より年始にかけ、上海の南に位置する寧波港では新型コロナウイルスの感染事例が相次いで確認され、寧波港の北仑区では厳しい規制の下で荷役が一時停止しましたが、2022年1月10日時点では3つのコンテナターミナルをはじめ荷役が正常に保たれていることが確認されています。
- また1月10日、北京に隣接する主要港湾都市である天津で、1月13日には大連市でオミクロン株の感染事例が確認されました。
- 天津港でも操業が一時停滞したものの、1月14日時点でまだ閉鎖や大きな混乱は確認されていません。一方で、天津市での大規模なPCR検査実施により、人員が不足し、港湾オペレーションの作業能力が低下しています。
- 大連港は世界でも最大規模の港の1つであり、2020年には合計2500万TEUを処理、グローバル企業の主要な生産ハブとして機能する港です。現状において大連港における荷役などへの影響は確認されていませんが、今後の動向が注目されます。

2. 物流への影響

- 貨物輸送業者によると、北京や天津港の遅延の中で、船は上海に向かっており、そこで混雑が増し、コンテナ船のスケジュールが約1週間遅れているという情報も確認されています。
- 昨年、深センと寧波港で新型コロナウイルスの感染事例が発生した際は、当局はすぐに輸送ターミナルを閉鎖し、巨大なコンテナ船の渋滞と滞留を引き起こし、中国の他の港にルート変更したため混雑に繋がりました。
- 冬季オリンピック開幕まであと3週間に迫る北京では、ウイルスを撲滅するための世界で最も厳しい措置といわれる「COVID-zero(ゼロコロナ政策)」として、広範囲のPCR検査やロックダウン等の強化策を決めています。中国の複数の主要な港湾都市でオミクロン株が確認されたことに伴い、域外移動制限による混乱が懸念され、混雑状況によってはさらに抜港等も増えるものと推測されます。
- 混乱が世界最大の貿易国全体に急速に広がり、米国やヨーロッパにも波及することで、すでに混乱している世界のサプライチェーンをさらに悪化させる可能性があるという懸念が深まっています。

上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。



【出展】

JOC.com <https://www.joc.com/>

Lloyd's List <https://lloydlist.maritimeintelligence.informa.com>

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリントピックスバックナンバー